

々長さ一五種に及ぶものもあり、六角柱をなし底面、錐面よく發達し、柱面には縦線がある。但し、端面を現はさないことが多い。其他、常陸山の尾、三河幡豆郡吉田、朝鮮忠清北道陵洞等も知られて居る。

以上、ベリリウムが注意すべき金屬であるこ

乙訓郡の簡

吉田敬市

とを述べたのであるが、世界各國で其の礦床を採りつゝある今日、我が國に於てもかくの如き礦床が發見されるれば、優良品は寶石として供給し、不良品は工業上に利用の途が開拓されるのであらう。

本郡の竹林並に筍は全國的に名高く筍と言へば乙訓郡を聯想する位著名なもので、其栽培の盛なる品質の優秀なる名實共に全國に冠絶し、

今や筍のみにて年額百萬圓に及び其販路は近畿各地は云ふに及ばず名古屋、東京方面に積出され竹材は遠く米、英、獨、等の諸外國迄輸出されるに至つた。

試に東海道線にて京都を發し西に向へば間もなく西方一帯の丘陵地に際限なく青々と繁る竹

の美林を見るであらう。此より山崎驛に到る間線路の左右に叢生する竹林が間斷なく展開する。此が即ち乙訓郡の竹林である。

一、數字に現はれた本郡の竹林と筍

元來竹は亞熱帶性の宿年性植物であるが今日に於ては其分布區域は溫帶地方に迄廣く分布し我國に於ては北海道、青森南は沖繩の各縣を除くの外殆んど多少の差こそあれ栽培せられ、我國に於ける重要な林業生産物の一を占めてゐ

る。

我國に於ける重要筍の産地を擧ぐれば左の通りである。

第一表 筍の産額 (第四十二次農林省統計)

府縣名	作付反別	收穫高	價 額	一段歩 收穫高
京都	一、四三〇・三 ^町	二、五五五、六〇四 ^貫	一、六七〇、九七七 ^圓	一七九 ^匁
福岡	一、五二〇・七	一、七九、三六六	八二、一四四	六
熊本	一、三三〇・三	一、〇五、四二二	三六、〇三二	七六
大阪	三、四〇・八	九三、七三三	四四、四八八	二四二
山口	一、二九三・九	七三、六六六	三六、五九	五
東京	三、〇一・五	七七、六三三	四九、六三三	二四三
島根	七四・七	六四、四九一	一四七、七四〇	八三
愛媛	七〇・二	五九、七五五	一〇三、三六六	七九
徳島	六二・八	五三、七五九	一六、〇七	八

(右表中京都府は孟宗竹のみで他は筍全部を含む。)

京都府竹林全面積は六、七一七町歩といふ數に上り全國第一位の竹栽培地である。此を前表によつて見るに收穫高に於て全國總計の約十八パーセント價額に於ては二十六パーセントに當る。

次に京都府下各都市の筍生産額を示すと左の通りである。

第二表 京都府下に於ける最近五ヶ年平均筍産額

郡市別	作付反別	收穫高	價 額
京都	〇・九 ^{町歩}	一、二〇〇 ^匁	九三六 ^圓
愛宕	八・九	一三、六六〇	六、五五〇
葛野	二、四三・三	三八、八六六	一三、〇〇〇
乙訓	五、九七・七	一、三三九、一〇〇	八四、七七一
紀伊	一、四七・七	五五、九四四	三七、一三三
宇治	六・九	一五、七三〇	八、一四二
久世	八・一	八、八〇〇	三、九六〇
綴喜	一、五九・九	二五、七五五	九、〇六六
相樂	六・三	一三、六六一	五、四一一
南桑	九・一	一八、一〇〇	九、一〇〇
北桑	二七・〇	二、五五〇	一、五五六
船井	一八・二	八、五五三	三、四四四
天田	四、四九	三、六三三	七〇、七〇
何鹿	四、八八	四、四六六	一八、七六六
加佐	三、六八	一四、〇三三	四、六六六
與謝	七、五九	三〇、九三三	一、六六六
中野	一〇・一	二、五五〇	九六
竹野	一五・七	八、六六〇	二、四四四
熊野	八・五	八、九六〇	二、八七七

合計 1,585.5 1,711.5 1,800.101

右表によると乙訓郡が府下第一位にして、其栽培面積は府全體の約三割五分に當り、筍の産額に於て約五割を占めてゐる、故に本郡は全國第一の竹林郡、筍産地といふ事が出来る。

次に郡内各町村別に作付反別及産高を見ると左の通りである。

第三表 郡内町村別、竹林栽培反別と筍産出高

町村別	作付反別	收穫高	價額	反當收穫
向日町	1,587.7	1,214.000	2,000.00	1.26
大山崎村	1,586.6	1,214.000	2,000.00	1.26
新神足村	1,587.7	1,214.000	2,000.00	1.26
海印寺村	1,587.7	1,214.000	2,000.00	1.26
乙訓村	1,587.7	1,214.000	2,000.00	1.26
大原野村	1,587.7	1,214.000	2,000.00	1.26
大枝村	1,587.7	1,214.000	2,000.00	1.26
合計	1,585.5	1,711.5	1,800.101	1.26

(昭和二年京都府統計書原簿に據る)

右第三表によると大原野、大枝、海印寺、向日町等の西部丘陵地の諸町村に多く東部平坦面の村に到るに従ひ漸次少くなつてゐる。此は左

乙訓郡の筍

圖竹林分布圖と參照して見ると明になる。

又此が累年の生産異動狀態に就いて見るに明治三十年以前の統計を欠くが、其後に於ては累年増加の勢を示し反別に於て明治三十五年に二百二十五町歩餘あつたものが最近に於ては六百町歩に近く、價額に於て明治三十年に三萬八千圓のものが百萬圓内外になつてゐる。前掲の統計類は孟宗竹についての計算であるが、其他一般の竹材三十萬圓、筍の罐詰二十五萬圓、竹皮六萬餘圓、竹製造品二萬圓合計百五十六萬圓の産額に上る。此を同年度に於ける他の生産品と比較すれば

種類	作付反別	收穫高	價額
米	1,214.000	1,214.000	1,214.000
苧	1,214.000	1,214.000	1,214.000
麥	1,214.000	1,214.000	1,214.000

右は孟宗竹のみに就いてで其他眞竹四百五十町歩、黒竹林廿町歩あり、此等竹類全體の收入高は前述通り百五十六萬圓に及び米産高と伯仲の間にありと見る事が出来る。

次に郡内各町村に於ける孟宗筍栽培戸數狀況を見るに左表の通りである。(乙訓郡農事統計原簿に據る)

第四表 孟宗筍栽培戸數

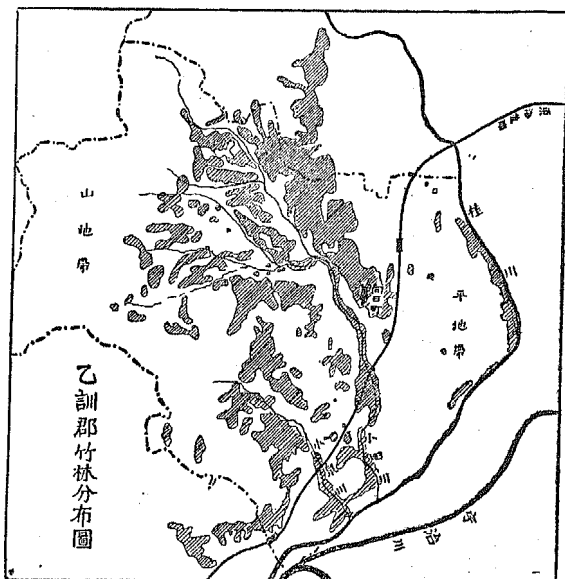
町村名	農家戸數	孟宗筍栽培戸數	割合
向日町	四〇〇	三七	四
大山崎村	二〇〇	八	四
新神足村	三〇	二	七
海印寺村	一七	一	六
乙訓村	二〇九	二六	一二
大原野村	五五	二	四
大枝村	一五	六	四〇
計	一、九〇	一、四四	七五

即ち以上各町村農家の約六割は孟宗竹栽培者である。其他の竹林一般の栽培者を加ふれば竹林業者は全農家の七八割に達するであらう。

かく竹林業は本郡生産業の最上級に位し、上の栽培地域の者は勿論其他の町村の一部の者も此等生産品の販賣、加工、運搬等に従事し、直接間接に竹のために生活を支えられてゐると云つても差支はない。

二、竹林の地理的分布

左圖は本郡に於ける竹林分布狀況を示したものである。此を見るに其の分布區域は二つの特



定の地域に多く限定されてゐる。それは

1. 長岡丘陵及び西方山麓の臺地又は丘陵地

2. 桂川、小畑川、小泉川等の流域

にして前者の丘陵地は孟宗竹の主栽培地、後者の河川の流域は眞竹の主産地である。故に其の分布區域によつて竹の種類を異にするのである。

先此等丘陵地台地は其高度二三十米乃至百米以内の洪積層の地層にして、最も孟宗竹栽培の好適地にして其生産の九割迄は此地域より産出するのである。従つて此等の丘陵地は殆ど竹林にして、(其種類は、全部孟宗竹のみでない。眞竹も加つてゐるが)竹林以外の地は水田となり普通の畑地を有せず、僅かに野菜類や茶畑等の特殊作物の栽培地を残すのみである。此等の丘陵地又は臺地が何故孟宗竹の栽培區域となるかと云へば一は孟宗竹の性質が此等の地質に適するからである。元來孟宗竹は地中深くより出づる筍を採取するものなれば柔軟にして土地深く水分多からざる壤土又は砂質壤土等を好み、排水良好なる事を必要條件とする。此に適するのは、沖積層の濕氣多い地又は古生層の堅い岩盤

ある地質を除き此等の洪積層地質が最も適するのである。然し近時竹林栽培年々盛となり、此等の丘陵地臺地は今や殆ど栽培し盡され其餘す所がなくなつて來たので漸次其圍りの古生層の急斜面の地まで栽培の手が延びて來た。故に本郡に於ては畠としては殆どなく、普通なら畠地として普通作物を栽培する地域がかく竹林の分布區域をなすものであるから、畠地栽培の作物は前述の通り野菜茶等が極めて少量にして他と全然其生産の形式を異にしてゐる。

次に第二類に屬する河川の流域の竹林は眞竹が主で孟宗は殆ど全くない。此も眞竹の性質に基くもので孟宗竹は前述の通り濕氣多きを嫌ふが眞竹はむしろ濕氣を好むからである。又孟宗は筍を採るのが主目的であるが眞竹は竹材を主とするから其土質等を比較的考慮するの必要少きが爲である。又河川の堤防の上に多く栽培されるのは一は堤防の保障上より來るものである。

而して地質以外に地形も亦關係するもので急

傾斜の地は竹材が齊整に發育せず用材として使用する上に喜ばれない。殊に孟宗竹に於てはこの傾斜が至大の關係を有し、傾斜十五度以内の地にして東又は南に向き日光光線を十分に享受し得る所が最も理想地である。

三、氣候

前述の如く竹は亞熱帶性のもので溫帶地方に迄廣く分布してゐるが、溫帶地方も稍寒冷な地には發育しないので氣候に左右せらるゝ事最も大である。本郡は山城盆地の中に於ても氣候最も溫和にして冬の乾燥季節風を直接防ぐ西、北の山地があり、終日陽光を浴びて竹林栽培上理想的な地域である。冬季の降雪は雪折して竹材を害する事多く、夏秋の暴風亦其損害大なり、又、氣溫寒冷に過ぎる時は筍の發育に影響すること勿論である。

抑々竹と氣候即ち氣溫、溫度、雨量等とは直接密接な關係が存するもので本郡が竹の良栽培地をなすは一は氣候に關係するは勿論であるが今日迄に於ては此等の關係に就き詳細なる調査

をされたものなく、只漠然と氣候と竹との間に關係があるものと言はれてゐるに過ぎない。

四、沿革

竹類に關する沿革は極めて古く古事記に見え名用竹、名湯竹、細竹、目刺竹、宇恵竹、辟竹打竹等の名は萬葉集に、河竹、吳竹、斑竹等は延喜式に掲げてある。

本郡の竹に關しては延喜式内膳司の條に箸竹四百五十株、九十株、山城國乙訓國、三百六十株相樂郡鹿鷹園とあるを見れば箸竹に用ひられる眞竹類は已に平安朝頃より廣く本郡に栽培されてあつた事が知られる。然し孟宗に關する古記録はなく、古今要覽稿(草木)に「孟宗竹は一名唐孟宗一名わせたけは漢名を狸頭竹、一名猫彈竹又猫兒竹といふ。中略掇孟宗竹は古より皇朝になかりしものにて正徳の頃西土の種をはじめて琉球より傳へしを薩摩に移し植へしが、今は四方にひろまりしより國史艸木混虫攷にみえたり。さればそれより以上は寒竹及鳳尾竹などの各同筍を生ずるを以て孟宗竹とは名付けしな

り。此竹の元より我國にあらざる確證なり。」と述べ又西遊記讀編に曰く「薩隅の邊に唐孟宗竹といふ竹あり、人家に多し。中略、此竹冬笋を生ず、味甚だ美なり寒中にも平皿一ぱいの笋を生ずること他國にはいまだ見ず。京都にも甚だ指ばかりなるは早春に出して料理に用ゆれども名計り珍しくて味宜しからず。孟宗竹の笋は大いにして然も和かに味夏の笋におとらず。若此笋を京都に送り登さば稀代の珍味なるべけれど道路三四百里を隔てたれば其事叫はず」云々とあり、

又武江年表六 安永八年己亥に

薩州侯品川の前邸へ琉球の笋を始めて植らる諸人これを珍重す。世に孟宗笋と稱す

塵塚談下に曰

孟宗竹近頃(文化頃)江戸に大なる竹藪諸所に出來たり。明和の頃は皆人珍しく思ひし竹にて有しなり云々

和漢三才圖繪、大和本草、本草一家言、本朝食鑑等に竹の種類を多く舉げてあるが孟宗の記

事はない。此等を通覽して考ゆるに孟宗は元來支那南方の原産で我國に入つたのは琉球地方が始めて、薩摩に入り漸次北進して來たものらしく、其廣く一般に栽培される様になつたのは、徳川後世の事であらうと思はれる。

乙訓郡に於ける孟宗栽培の歴史については確然たる證はないが口碑の傳ふる所によれば海印寺村字奥海印寺に眞言宗の寂照院といふ古寺があり、同寺の院主の友人たる宇治黄檗山主某氏が唐土に入り持歸つたものを分けて貰つたのだと言はれてゐる。初は賞翫用として珍重されたが天保年間になつて食用としての利用が判り栽培増加されたが眞に栽培を積極的に行つたのは明治になつてからである。明治以後に於ても消長變化が多かつたが郡民の努力によつて名實共に日本一の筍となつたのである。

五、栽培法

栽培地の地勢上より低地栽培法と高地栽培法に分ける事が出来る。低地栽培とは鐵道沿線附近の二三十米の比較的低地にて栽培するもので

高地栽培に比し下草の採集、置土等に不便があるから、下草に代ゆるに人糞尿の如き速効肥料を與へるもので、氣候も亦山手に比し稍溫暖にして筍發生の時期を早からしめる利があり早稲物の供給地として利用される。高地栽培は多く北方の山手に於て行はれ人糞尿等十分には得難いので下草、置土等を以て此に代へるので其發生も稍遅れるが最も重要な分布區域をなしてゐる。

1. 開 墾

新に孟宗畑を植栽するには山林又は桑畑、茶園等を開墾せねばならぬ、其方法は單に原地を掘返し木の株等を除去すれば可なるもので、又全體を開墾せず苗竹を植付くる所のみを開墾する方法もある。

2. 移植及施肥

苗竹は一年生最も良く、三年以上のものは不適當である。母竹は地下莖を左右一尺位殘して掘り、枝は五六枝附し、上部竹幹を切り根元の土を附したまゝ移植する。其時期は九月初旬よ

り翌年三月頃迄のうちに本田に移植する方最もよく一反歩三十本見當である。

施肥は主に人糞尿を給するが、敷草、土置等が本栽培上重要なもので之は土壤を膨軟にし乾燥を防ぎ地溫を高むると共に新地下莖を地表近くに誘致し其發育を催す爲め是非必要な管理である。

3. 採 取

採取は氣候其他の關係で多少早晚はあるが普通二月下旬から五月上旬に終る。近年栽培法が進歩した結果八、九の二ヶ月を除き何れの時期に於ても多少の收穫は得られる。正月頃採取するものは俗にハシリコと稱し地下深所のものを掘出すもので指大であるが珍重せられ高價なものである。

筍の採取は極めて困難なもので熟練を要する表土に細少な龜裂又は露が生じてゐるのを目標に筍の有無を知り、芽の上部の方向關係によつて筍が其地下莖に附着してゐる状態を判斷し掘取鉋といふ身長二尺九寸、柄の長さ二尺五寸位



筍掘りの實況

の細長い鍬で掘取る。熟練した者が掘るのは實に見事なもので曾て今上陛下東宮におはします頃この筍掘の實況を臺觀に供した事がある。

4. 生産物の特徴及び其販路

乙訓筍の聲價高い所以は其肉質柔かにして淡白、苦味少く、之を食するも纖維を残さない點である。此は一は土質、氣候等の自然的條件に關係するが一方栽培方法が他より一段の進歩を來してゐるからである。筍の良否は種々の條件があるが外觀的に見て形態圓く太くよく肥え、外皮濃黒褐色ならざるものが柔く美味である。粘質壤土等に育ち色の白いのは大きなものも大概柔かい。

販路は京都、大阪、神戸の三大都市を其重要得意先とし、近畿各地は勿論、名古屋、岐阜、東京方面迄積出され罐詰製品は全國各地に送られる。然し近年政府の保護奨励もあり斯業の利潤多く普通農作物より有利